

特集 都道府県における取組

兵庫県における小豆の品種の収集・保存・配布について

兵庫県立農林水産技術総合センター 主席研究員 澤田 富雄

○兵庫県における小豆栽培の現状と品種育成の取組み

兵庫県は古くからの大納言小豆の産地であり、現在も丹波地方を中心に約680haの作付面積がある。古来、丹波地方で穫れる小豆は、種皮がしっかりしており、水浸しても腹が切れないことから、公達が悪事を働いても腹を切ることがない官職「大納言」にあやかって「大納言小豆」と呼称されたと言われており、縁起のよい小豆である。そのため、関西では、赤飯に大納言小豆を用いるのが一般的である。なお、この話のモデルとなった品種は、在来種「春日黒莢大納言」であると言われており、現在でも丹波の一部地域で栽培されている(写真1)。

さて、兵庫県で栽培される小豆は「丹波大納言」と称され、珍重されてきたが、栽培品種の実態は、各地域に伝わる大納言小豆の在来系統であったため、実需者からは、しばしば品質のばらつきを指摘され、均質化を求められていた。このような要請に対する最もよい解決法は、優良品種を育成し、品種を統一することである。そこで、1981年に兵庫県立中央農業技術センター但馬分場(現兵庫県立農林水産技術総合センター北部農業技術センター)が遺伝資源の収集と品種育成に乗り出した



写真1 丹波市春日町東中にある大納言小豆発祥の地の碑

(試験実施期間は1988～90年)。兵庫県内だけでなく、近隣府県に存在する地方系統や北海道の品種を収集し、その中から優良な形質を持つ品種を選抜したり、交配育種によって新しい形質を持つ小豆の品種を選抜し、産地に優良品種の普及を図る試験が実施された。

一連の小豆の品種試験により優良品種として選抜されたのが、小豆「兵系1号」、「兵系2号」、「兵系3号」である。「兵系1号」は美方郡小代村(現美方郡香美町小代区)で採集された原株からの純系選抜、「兵系2号」は氷上郡青垣町(現丹波市青垣町)で収集された原株からの純系選抜で育種され、「兵系3号」は「兵系2号」と在来種「安富白」との交配育種から生まれた。「兵系2号」、「兵系3号」は、後に品種登録され、それぞれ「兵庫大納言」、「白雪大納言」と命名された。「兵庫大納言」は、烏帽子型の大粒種で、品種特性表では、千粒重は25.9gであるがしばしば30gを超える極大粒種である。また、「白雪大納言」は、大粒の白小豆品種であり、姫路市の一部で特殊な和菓子用に契約栽培されている(写真2)。

「兵系1号」は、品種登録はされなかったが、原

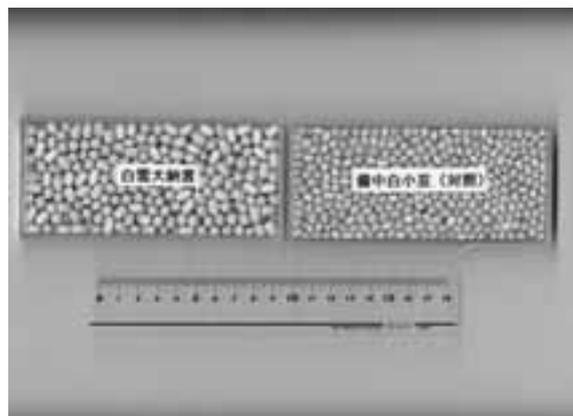


写真2 白雪大納言と備中白小豆の比較

株採取地の美方郡で、特産小豆「美方白莢大納言」として、ブランド化に力が入れている。「兵庫大納言」および「美方白莢大納言」の特性を表1、2、3に示す。

現在、本県においては、在来種は著しく栽培面積を減少させ、丹波地域と西播地域では「兵庫大納言」、兵庫県北部では「美方白莢大納言」が栽培面積を拡大している。品種の統一が図られることによって、品質のばらつきは改善されたが、ブランド「丹波大納言」を支えてきた在来種が消えていくことには危機感もあり、在来種の収集・保存も並行して行っている。

○試験研究機関による在来種の収集

小豆在来種の収集は1981年に但馬分場で実施された。県下では、丹波地方、美方地方を中心に、17系統、大阪、鳥取、島根、岡山、広島、滋賀、京都など西日本各地から18系統の在来種を収集していた。しかし、現在、この時行われた収集品はほとんどなく、その後新たに在来種の収集がなされた。現在は県内の在来種11系統、県外20系統を種子保存している。これらの系統が最後に栽培されたのは2001年であったが、本年、保存栽培を試みると、ほぼ50%程度の発芽率が保持されていたため、無事、保存栽培を展開することができた。丹波の在来系統については、普及センターからも

保存栽培の要請があり、今後も受け入れていく方針である。

○試験研究機関による小豆品種の保存

これらの在来種および育成品種は、北部農業技術センター種子保管庫に保存され、圃場配置に余裕があるときに系統保存栽培を実施している。種子保管庫は室温12℃、湿度50～60%に維持されており、小豆種子の長寿命の性質も相まって、10年程度は十分に発芽力を維持できる状態になっている。上記の在来種以外に、「兵庫大納言」、「美方白莢大納言」、「白雪大納言」の原原種を保存している。これらの育成品種は、4年ごとに原原種栽培を行い、系統維持に努めている。

○試験研究機関による小豆品種の配布

育成品種については、県内の生産者からの申請に基づき、有償分譲を行っている。「兵庫大納言」は丹波市と篠山市、「白雪大納言」は姫路市、丹波市、朝来市、「美方大納言」は美方郡の生産者団体からの分譲依頼があるため、原原種栽培を行っている。特に、「兵庫大納言」は丹波で面積を拡大中のため、JAで原種・採種栽培の体制が確立しているので、原原種配布は、毎年、計画的に所定量を配布している。

表1 形態的・生態的特性（その1）

品種名	毛茸多少	葉の形状	花色	主茎長	分枝数	主茎節数	熟莢色	莢の形状	
								長さ	幅
美方白莢大納言	少	円	黄	中短	中多	少	極淡褐	長	広
兵庫大納言	少	円	黄	中	中多	中	褐	長	広

表2 形態的・生態的特性（その2）

品種名	1莢粒数	子実の形状		種皮色	開花期	成熟期	倒伏抵抗性	ウイルス抵抗性	収量性
		形	大小						
美方白莢大納言	極少	烏帽子	極大	赤	晩	晩	弱	中	中少
兵庫大納言	極少	烏帽子	極大	濃赤	晩	極晩	弱	中	中

表3 育成地（朝来市和田山町玉置）における生育・収量・品質（1985～90年）

品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	生育中の障害(0-5)			主茎長 (cm)	主茎節数	主茎径 (mm)	分枝数	着莢数 (/㎡)	1莢粒数	精子実重 (kg/a)	百粒重 (g)
			倒伏	蔓化	ウイルス								
美方白莢大納言	9.01	10.27	0.4	3.2	0.2	59	15.3	7.9	5.1	210	3.9	18.3	23.3
兵庫大納言	9.03	11.06	0.6	3.0	0.9	69	16.6	7.6	5.4	227	4.2	20.5	25.9